

CDP2024「気候変動」で「B」、「水セキュリティ」で「A」の評価を獲得

デンカ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：今井 俊夫）は、2025年2月7日に発表された CDP2024 のスコアにおいて、「気候変動」で「B」、「水セキュリティ」で「A」となる評価を獲得しました。

CDP（本部：ロンドン）は、2000年に世界の機関投資家が連携して設立した環境情報開示システムを提供する国際的な非営利団体です。世界の主要企業に対して「気候変動」「水セキュリティ（水資源保護）」「フォレスト（森林保全）」に関する質問票を送付し、各企業の環境情報開示の透明性や経営の関与等を評価した結果をスコア付けして公表しています。CDPは、2024年に全世界の24,800以上の企業に本プラットフォームを通じた環境情報の開示を推進し、過去最高の情報開示となる22,000社以上の企業をスコアリングしています。

企業の気候変動への取り組みの進捗と情報開示に関する透明性や、企業ガバナンスの高度化が求められる中、当社は CDP2024 のスコアにおいて「気候変動」は「B」、「水セキュリティ」は「A」となる評価を獲得しました。

当社は、2023年度よりスタートした経営計画「Mission 2030」の下、サステナビリティの追求を経営の根幹に位置付けております。CDP2024より、3つの情報開示分野を統合化したシステムが導入され、これには海洋や生物多様性も開示対象に含まれているほか、国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）^(*1)が公表する気候関連情報開示に係る新たなグローバル基準（IFRS S2）^(*2)との整合が進められています。

当社は今後もより踏み込んだ KPI の設定や、具体的なリスクと機会の深耕、企業活動が資源に与える影響を精緻に把握し極小化するなどの改善を図りながら、引き続き適切な環境情報の開示に取り組みます。

デンカはこれからも、「化学の力で世界をよりよくするスペシャリストになる」というパーパスのもと、世界に誇れる化学で、人々の暮らしと社会に貢献し続けます。

以上

(*1) 国際サステナビリティ基準審議会（ISSB）：International Sustainability Standards Board の略称。国際的な会計基準を定める IFRS 財団が、企業のサステナビリティ情報開示におけるグローバルでの基準の統一化を図るために 2021 年 11 月に発足した国際組織。

(*2) IFRS S2：ISSB が定める International Financial Reporting Standards（国際財務報告基準）を構成する基準の一つ。サステナビリティ全般への要求項目を IFRS S1、そのうち気候関連の詳細な開示項目を IFRS S2 として定めている。

【報道関係者からのお問い合わせ先】

コーポレートコミュニケーション部（電話 03-5290-5511）